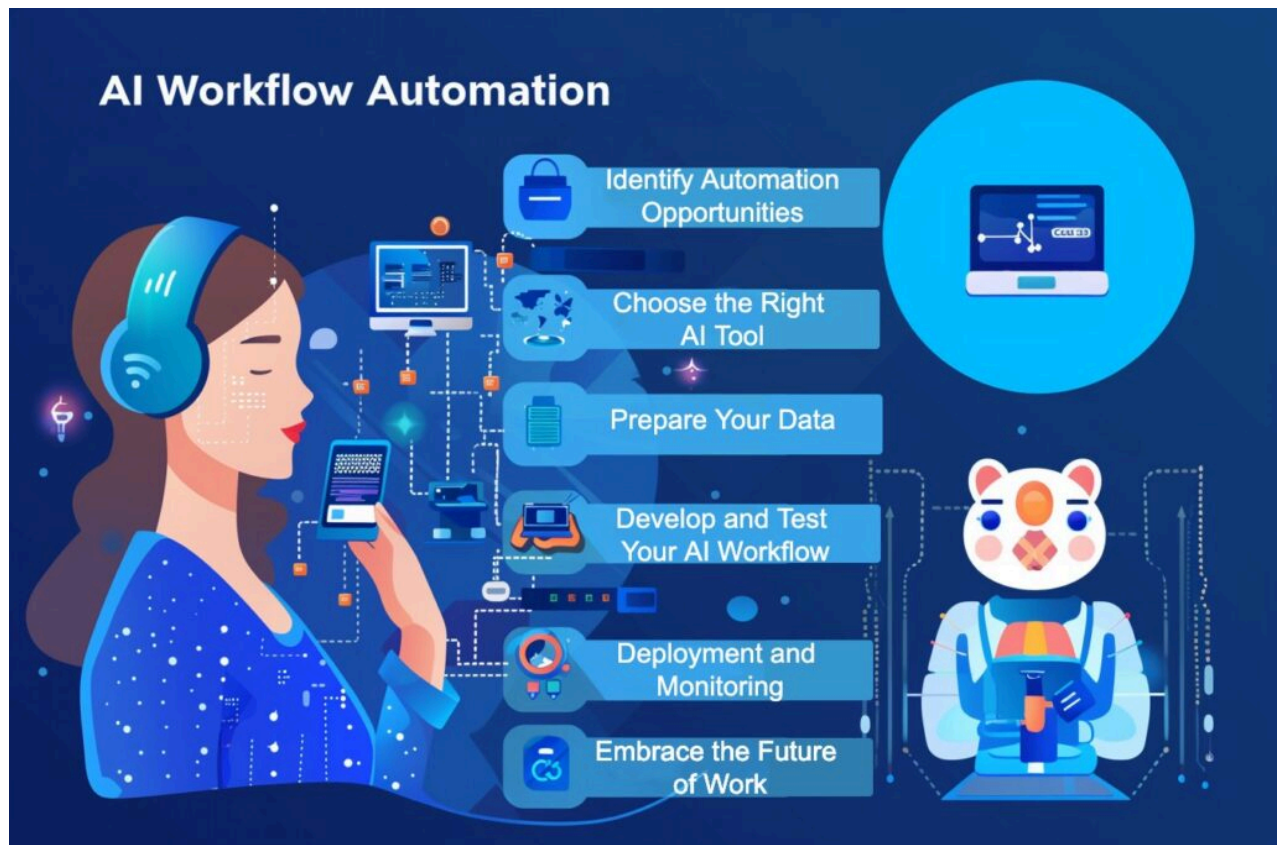




R&D知財グループウェア「THE調査力AI」の「AIワーカー」新機能と2025年知財・情報フェア出展の徹底分析

R&D知財グループウェア「THE調査力AI」に生成AIを活用した「AIワーカー」機能が新登場し、アイ・ピー・ファイン株式会社が2025年9月10日から12日に開催された「2025知財・情報フェア&コンファレンス」で大きな注目を集めた。本レポートでは、これらの最新動向と業界評価について包括的に分析する。



Six key steps in AI workflow automation from identifying opportunities to embracing the future of work illustrated with digital devices and a robot assistant.

AIワーカー機能の革新的特徴

生成AI活用による新しいアプローチ

「AIワーカー」は、THE調査力AIに統合された生成AI機能で、従来の特許調査業務を根本的に変革する設計となっている。この機能は「調べる・考える・まとめる」を自動化し、**研究者や知財担当者の業務負担を大幅に軽減**することを目的としている。^{[1][2]}

主要機能の詳細：

- **製品情報リサーチ**: 生成AIがインターネット上の情報を収集・分析し、競合製品や技術動向の把握を支援^[1]
- **ChatGPT要旨・KW**: 特許案件の要旨を250字で自動生成し、重要キーワードを抽出^[1]
- **マイAIワーカー**: ユーザーが自由にAIに業務指示を作成でき、サンプルから簡単に構築可能^[1]

これらの機能により、**自社権利評価、特許調査、R&Dランドスケープの全領域でAI支援**が実現されている。^[2]



THE調査力AIの進化と効率化効果の比較分析

技術的革新性

AIワーカーの技術基盤は、TensorFlowを使用したDeep Learningプラットフォーム上に構築されている。独自開発のDeskbeeシステムが機械学習部分を担当し、その後処理と特許分析に特化したインターフェースがTHE調査力AIとして提供されている。^[3]

技術仕様の特徴：

- 形態素解析器MeCabを使用した特許公報テキストデータの文書ベクトル化^[3]

- 1次元畳み込みを用いた時系列処理アルゴリズム^[3]
- 教師データとの類似度を2種類の確率値で算出^[3]

2025年知財・情報フェア & コンファレンス出展内容

展示概要

アイ・ピー・ファイン株式会社は、東京ビッグサイト西4ホール（小間番号W4-75）で出展し、**「生成AI活用の新しいカタチ」**として以下の内容を重点的にアピールした：^[2]

主要展示内容：

1. THE調査力AI「AIワーカー」新登場
2. JAICI AutoTrans連係による日本語化精度向上
3. 研究開発/知財情報統合インテリジェンス「大和 YAMATO」
4. R&DランドスケープIIC

プレゼンテーション内容

会期中に2回の企業プレゼンテーションを実施：^[2]

第1回（9月11日）：「研究現場の情報ハブ『R&DランドスケープIIC』&知財DXラボ報告」

第2回（9月12日）：「生成AIで加速、無限の可能性！『AIワーカー』」

これらのプレゼンテーションでは、**R&D部門と知財部門をつなぐDXの最前線**と生成AI活用の研究報告が行われ、定員120名の会場が満席となるほどの関心を集めた。^[2]

JAICI AutoTransとの連係強化

化学物質表記翻訳の革新

THE調査力AIは、化学情報協会（JAICI）のJAICI AutoTransとの連係により、**化学物質表記に強い高精度機械翻訳**を実現している。この技術は、従来の機械翻訳では困難だった複雑な化合物名の正確な翻訳を可能にしている。^{[1] [4]}

JAICI AutoTransの特徴：

- 国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）開発の最新翻訳エンジン採用^[1]
- 独自開発の「化合物表記翻訳」技術により誤訳・訳抜けを極力排除^[1]
- 特許文書の構造に応じた前後処理を高度に適用^[1]

例として、「carbohydrate-deficient transferrin」は一般的なWeb翻訳では「炭水化物欠乏トランスフェリン」となるが、JAICI翻訳では正確に「糖鎖欠損トランスフェリン」と翻訳される。^[1]

R&DランドスケープIICの戦略的価値

情報統合インテリジェンス

「大和 YAMATO」として位置づけられるR&DランドスケープIICは、**企業のための次世代イノベーション支援ソリューション**として開発された。このシステムは、特許情報に加えて意匠・商標・論文、社内技術情報、他社技術情報、ニュースリリースなど多様な情報を一元管理できる。^{[1] [5]}

システム構成の特徴：

- 社内サーバー対応のクローズド生成AI環境^[1]
- RAG (Retrieval-Augmented Generation) 技術の活用^[1]
- ファイアウォールによる接続制御でセキュリティを確保^[1]

戦略データベースとしての活用

R&DランドスケープIICは、**継続的ランドスケープを実現する戦略データベース**として機能する。分散した関連情報の集約により、自社/他社技術情報、論文・文献情報、ニュース・雑誌、市場情報、特許情報、意匠・商標情報を統合的に分析できる。^{[1] [5]}

業界評価と導入事例

実際の導入効果

化学メーカーC社（社員数3万人）の導入事例では、**海外特許調査の劇的な効率化**が実現された。同社では以前、英文や現地語での特許調査に膨大な労力を要し、研究・開発活動に大きな支障が生じていたが、THE調査力AI導入により以下の効果を得られた：^[6]

具体的な改善効果：

- 海外特許文献の自動和訳により翻訳作業時間を大幅短縮^[6]
- AIによるノイズ判別機能で関連性の低い特許を自動除去^[6]
- 研究者の英語習熟度に関わらず効率的な特許文献の読解が可能^[6]
- ダブルチェック体制の構築により品質向上を実現^[6]

知財AI活用研究会での検証

アイ・ピー・ファイン株式会社が主催する「知財AI活用研究会」では、2018年の設立以来、企業の実務担当者による実証研究が継続的に行われている。第6期では、**第4世代AIとChatGPTを活用した業務効率化**をテーマに、25社35名が参加して検証が行われた。^{[7] [8]}

研究成果の特徴：

- 従来のSDI業務からAI活用による効率化への移行検証^[9]
- 日本化薬株式会社によるSDIへのAI活用検証で具体的な成果を確認^[9]
- 化学系企業と情報サービス企業からの参加が大半を占める^[8]

市場における競合評価

特許調査システム市場での位置づけ

THE調査力AIは、業界唯一のノイズ特許判定システムとして差別化を図っている。特許調査システム市場では、PatentSQUARE、SRPARTNER、AI Samurai ONE、patentfieldなどとの競合が存在するが、THE調査力AIは以下の独自性を持つ：^[10] ^[11]

競合優位性：

- R&D部門向けに特化したグループウェア機能^[11]
- AIによるノイズ除去機能の精度の高さ^[12]
- 多言語対応による海外特許調査の効率化^[12]
- 部門間での情報共有機能の充実^[13]

業界専門家による評価

知財業界では、THE調査力AIの取り組みが**知財DXの先駆的事例**として評価されている。代表取締役社長の古川智昭氏が著した「日本の開発力を甦らせる知財DX」は業界で高く評価され、紀伊國屋書店横浜店で和書ランキング週間1位を獲得するなど、知財業界のDX化への関心の高さを示している。^[14] ^[15]

技術的課題と将来展望

セキュリティと信頼性の確保

アイ・ピー・ファイン株式会社は、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の認証（ISO/IEC 27001、ISO/IEC 27017）を取得し、企業の機密情報を安全に扱える環境を整備している。^[16] 特に生成AIを活用する上で、**データの機密性確保は最重要課題**として位置づけられている。^[11]

AI技術の継続的進化

THE調査力AIは、GPT-4o-miniなどの最新AIモデルを使い分けながら、2025年12月には推論型AI搭載、2026年春には新規ワーカー作成機能の公開を予定している。これにより、**担当者自動分担、社内分類自動付与、関連性評価、化学物質名抽出、類似キーワード抽出**などの高度な機能が実現される見込みである。^[11]

結論

R&D知財グループウェア「THE調査力AI」の「AIワーカー」新機能は、**特許調査業務の根本的な変革を実現する革新的なソリューション**として業界から高い評価を受けている。2025年知財・情報フェア&コンファレンスでの出展は、同社の技術力と将来ビジョンを示す重要な機会となり、多くの企業関係者から注目を集めた。

化学物質翻訳に強いJAICI AutoTransとの連携、R&DランドスケープIICによる情報統合、そして生成AIを活用したAIワーカー機能により、THE調査力AIは**知財DXの最先端ソリューション**としての地位を

確立している。導入企業での具体的な効果実証と継続的な機能改善により、今後も特許調査業務の効率化と高度化を推進していくことが期待される。

※

1. 2025Zhi-Cai-notikaratoDX.pdf
2. <https://ipfine.jp/other/2025-知財・情報フェア&コンファレンスに出展しま/>
3. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/73/7/73_281/_pdf
4. https://www.ccsnews.jp/ccs2/2020/4q/2020_4Qccs2020wjaici.htm
5. <https://ipfine.jp/iic/>
6. <https://ipfine.jp/case/case001/>
7. <https://ameblo.jp/ipfine/entry-12808003289.html>
8. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/70/7/70_349/_pdf
9. https://www.youtube.com/watch?v=G_RM0-ZDdKc
10. <https://www.youtube.com/watch?v=z4PR-XJbigg>
11. <https://www.shopowner-support.net/hr/personnel-recruitment/manufacturing-industry/patent-search-system/>
12. https://www.shopowner-support.net/attracting_customers/manufacturing/manufacturing-general/tip/
13. https://www.shopowner-support.net/attracting_customers/manufacturing/ipfine/
14. <https://ameblo.jp/123search/entry-12796816665.html>
15. <https://ipfine.jp/notice/『日本の開発力を甦らせる知財dx』がランキング1/>
16. <https://ipfine.jp/company/>
17. https://www.inpit.go.jp/about/topic/info_20250821.html
18. https://aismiley.co.jp/ai_news/ipfine-the-tyousaryokuai/
19. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000057.000025380.html>
20. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/07/pifc2025pamphlet_v1.pdf
21. <https://www.ipros.com/product/detail/2000741300/>
22. <https://mono.ipros.com/product/detail/2000741300/>
23. <https://pifc.jp/2025/report/>
24. <https://chatgpt-enterprise.jp/blog/ai-research/>
25. <https://ipfine.jp>
26. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf
27. https://note.com/socialmedia_boss/n/ne7c3a50f0e25
28. https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/pifc2025presen_v2.pdf
29. https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025map_v2.pdf
30. <https://ameblo.jp/ipfine/entry-12722278825.html>
31. <https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025chizai.pdf>
32. https://www.sankei.com/images/event/banner/pifc2025_guide.pdf
33. https://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2024book/24_4_04.pdf
34. <https://newscast.jp/smart/news/9517812>

35. <https://www.atpress.ne.jp/news/325965>
36. <https://mov.am>
37. https://ipfine.jp/case_category/case_ai/
38. https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/r06_01_houkoku.pdf
39. https://pifc.jp/2023/wp-content/uploads/2023/09/pifc_forum1_005.pdf
40. <https://www.proofpoint.com/jp/email-and-cloud-threats/voice-phishing-with-AI-learning-ceos>
41. <https://ipfine.jp/deskbee5/>
42. <https://www.openwork.jp>
43. https://ipfine.jp/ip_ai/
44. <https://ipfine.jp/tip/>
45. <https://www.editage.jp/blog/the-dos-donts-of-using-generative-ai-tools-ethically-in-academia/>
46. https://thefocus-on.com/furukawa_tomoaki/
47. https://www.youtube.com/watch?v=iA_rzvWbLcl
48. https://note.com/rami_engineer/n/n602a829b26f8
49. <http://www.kenja.tv/president/detkho5zb.html>
50. https://note.com/voice_chizai/n/nc781fa68c48f
51. <https://ipfine.jp/company/outline/>
52. <https://ipfine.jp/category/news-ip-ai/>
53. <https://ipfine.jp/company/media/>
54. <https://ipfine.jp/category/event-seminar/>
55. <https://ai-keiei.shift-ai.co.jp/benrishi-ai-tools/>
56. <https://ipfine.jp/event-seminar/3月1日開催！-知財ai活用研究会最終報告会およびrd情/>
57. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/b4acb0b0a9c72fe9b2bd.pdf>
58. <https://www.jaici.or.jp/news/products/2022/2022-2-2/>
59. https://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2024introduction/02_01.pdf
60. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/ad7a2fe920f586e29ee1.pdf>
61. https://www.ccsnews.jp/ccs2/2017/4q/2017_4Qjaiciautotrans.htm
62. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000086119.html>
63. <https://www.jaici.or.jp/news/products/2024/2024-07-18/>
64. <https://ipfine.jp/event-seminar/知財情報フェア/>
65. <https://techgym.jp/column/benrishi-ai/>
66. <https://www.jaici.or.jp/news/products/2025/2025-02-27/>
67. https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP695394_Y5A810C2000000/
68. <https://www.jaici.or.jp/translation/autotrans/>
69. <https://ipfine.jp/other/2023特許・情報フェア&コンファレンスに出展しま/>
70. <https://note.com/neds/n/nb4d72f0a1a01>
71. <https://www.jaici.or.jp/translation/>
72. <https://ipfine.jp/company/csr/>

